



## アドビシステムズ株式会社が Adobe® Acrobat® 4.0 日本語版を発表

電子の紙 PDF でグローバルな情報資産共有を実現

【1999年5月12日】

アドビシステムズ株式会社（本社：東京都渋谷区 代表取締役社長：ジェシー ヤング）は本日、さまざまなドキュメントを簡単に Adobe PDF（アドビ ポータブルドキュメントフォーマット）に変換する Adobe Acrobat（アドビ アクロバット）4.0 日本語版を発表しました。PDFは非常にコンパクトなデータフォーマットで、パソコンの機種や、アプリケーションソフトウェアの違いを意識することなく、電子的なドキュメントとして配布することが出来ます。

Adobe Acrobat 4.0 日本語版の発売時期は 1999年6月18日 で、価格はオープンプライスとなります。市場での価格は3万円前後になると予想されます。また、このドキュメントを見るための Adobe Acrobat Reader 4.0 日本語版は、本日以降アドビシステムズ株式会社のウェブサイト <http://www.adobe.co.jp> から無償でダウンロードすることができます。なお、Adobe Acrobat 3.0Jの正規登録ユーザに対しては、アドビシステムズより4.0へのアップグレードパッケージが直販価格9800円で提供されます。アップグレードパッケージはディーラーや販売店でも購入することができます。また本日以降、無償アップグレードステッカーがついた Acrobat 3.0Jを購入したユーザは、無償で4.0へアップグレードすることができます。なお、Adobe Publishing Collectionのパッケージの中に含まれる Acrobat 3.0Jも本製品の出荷に伴い、Acrobat 4.0日本語版に切り替わります。同製品に含まれる Acrobat 3.0Jのアップグレードに関しても単体パッケージ同様の取り扱いとなります。

Adobe Acrobat 4.0 を活用すると、様々なアプリケーションソフトウェアで作成された電子ドキュメントのほか、インターネットの Web ページ、スキャナから読み込んだ紙のイメージやデジタルカメラからの画像データを、PDFファイルに変換することができます。また、Acrobat 4.0 では、12種類の言語をサポートし、日本語、中国語、韓国語といったダブルバイトのフォント埋め込み機能も新たに加わりました。これでパソコンのサポート言語やフォントの有無を気にせずに、世界中に PDF を送信することができます。また、無償配付されている Acrobat Reader を使えば、どんな機種のパソコンからでも PDF ファイルを見たり印刷したりすることが可能になります。また、これまでの Acrobat 3.0J は、いったん PDF にしてしまうとオリジナルのアプリケーションファイルに戻らなければコメントや変更などを加えることができなかったため、一方通行のドキュメントパブリッシングツ-



ルでしたが、Adobe Acrobat 4.0 日本語版では、PDF ドキュメントの内容をオンラインで校正し、その結果をマークアップしたり、コメントを付けたり、訂正を加えたり、セキュリティを施したりと、グループでのコラボレーションを支援し、ワークフロー全体の効率化を支援するための双方向ドキュメントパブリッシングツールとしてさまざまな機能が追加されています。

このようにお互いのプラットフォームやアプリケーションの違いを意識せず、確実なドキュメント共有および交換を可能にすることで、さらなる情報資産活用が促進され、ビジネスそしてコミュニケーションの可能性が広がります。

Acrobat 4.0では、ビジネス業務上でスタンダードとなっているMicrosoft®Office 97やWord 98との連携も実現しており、Word や Excel から簡単に PDF を作成することができる上、Web ページやデジタルイメージをそのまま PDF に取り込んで、文書を構造化して整理することができます。またコンパクトになったファイルをメールに自動添付する機能も追加されました。( Windows®版のみの機能となります ) 添付書類を PDF にして送信すれば、マクロウィルスを運ぶ心配もありません。また、埋め込み許可が与えられた CID フォントおよび Windows True Type の日本語フォントの埋め込み、タッチアップ、注釈機能など、ドキュメントを交換するようなワークフローを支援する機能が加わったことで、印刷、デザイン、広告といった分野において、電子送稿などの新しい試みが生まれようとしています。また、PDF はポストスクリプト技術をベースとしているため、企業、官公庁、教育機関などが、広告代理店や Web、印刷、デザインなどのプロフェッショナルに業務を依頼する際にも、互いにドキュメントを共有し、共同作業をオンラインで行うことが出来ます。

書類を多く扱う官公庁や教育機関、ビジネスの世界において、多くのドキュメントワークフローはいまだ紙ベースであり、コンピューティング環境は異機種が混在しているため、企業や官公庁、教育機関が電子的なドキュメント共有の利点を享受することは、実際には容易なことではありません。Acrobat 4.0 は、さまざまなコンピュータ プラットフォームとアプリケーションのバージョン間における、信頼性の高いドキュメント交換を実現し、Web も含めた社内外のあらゆる情報を整理、蓄積し、情報資産の活用を促進します。また、最終的に電子メールや紙、CD-ROM、Web、イントラネットのアーカイブに置くなど、コミュニケーションする相手先にあわせて、ひとつの情報をあらゆる媒体でワールドワイドに配信、共有することができます。PDF はあらゆるドキュメントを共有するためのプラットフォームであり、企業は既存のインフラを活用して、強力な武器となる情報資産の活用を実践することができます。



近い将来 Adobe Acrobat 4.0 の新しい機能によって、各企業の日常的なオペレーションプロセスや情報活用および共有プロセスが大きく変革されるかもしれません。

印刷の現場でオンライン校正を行うために Acrobat を活用している大日本印刷株式会社 包装事業部デジタルネットワーク化推進本部 本部長 功力正氏は、次のように述べています。「クライアントとの共同作業の中で PDF を使ったオンライン校正をしています。Acrobat 4.0 はネットワーク上での共同作業を可能にするため、クライアントと印刷会社の製版部門、そして印刷部門とのコミュニケーションを劇的に改善します。Acrobat 4.0 に期待しています。」また、同社の C&I 総合企画開発本部 リーダーの加藤 治郎氏は「製品カタログを PDF の電子カタログとして CD-ROM にしたり、インターネット上で金融関係の情報を PDF で配信するサポート業務を行っていますが、まさに PDF は電子の紙だと言えます」と述べています。

現在 Acrobat 3.0J を広告の現場で活用する 株式会社 電通 デジタル・ビジネス・デザイン局 ビジネス開発局 ビジネス開発 1 部長 峯川卓氏は、「広告の制作作業の中で PDF を校正作業に利用しています。Adobe Acrobat 4.0 日本語版で日本語フォントの埋め込みが可能になり、より精度の高い PDF ファイルが作成されるでしょう。最終的には広告原稿の電子送稿フォーマットとしても期待しています。Acrobat は広告ビジネスにとって強力なツールです」と述べています。

また、凸版印刷株式会社 ソリューションセンター ソリューション企画チーム 半田高広氏は現在の Acrobat 活用状況を、「印刷用のデータを他の電子メディアで 2 次利用する際に PDF を活用しています。レイアウトデータから自動的にリンクを更新するソフトウェアを自社開発し効率的に PDF を作成しています」と述べ、遠隔地との校正作業に Acrobat を利用されている同社同企画チーム朝田大氏は、「遠隔地の校正作業に PDF を活用しています。Acrobat 4.0 では注釈ツールなどが強化されていますので、今後さらに校正での利用は広がると思います。また Acrobat 4.0 での日本語の埋め込み機能により校正の精度の向上と出力前のファイルのチェック作業が効率化されます。出力直前の直しを併せて利用すればワークフロー全体が大幅に改善されると期待しています」と述べています。

この他にも色々な形で電子の紙 PDF が活用されています。日本航空株式会社 宣伝部 島 敏行氏は、時刻表を PDF ファイルにして公開することで顧客サービスの充実および印刷コスト削減、地球環境への配慮ができると述べています。「1998 年 11 月より国内航空会社としては初めて、現在 2 ヶ月に 1 度発行されている『JAL 国内線時刻表』の広告ページを除く全ページを、印刷されたそのままの形で掲出する『デジタル時刻表』を弊社ホームページで提供しています。当社では、1996 年 7 月に日本で初めてインターネットによる国内線予約



を実現し、その後利用者数が順調に伸長し、マルチメディアを利用してご予約を頂くお客様にさらに充実した情報サービスを提供したいと考えております。『調べたい時に手元に時刻表が無い』『必要なページだけを印刷したい』等のお客様の声にお応えできるものと確信しております。さらにこの『デジタル時刻表』の発行により、印刷時刻表の発行部数の削減も考えられることから、地球環境への配慮、貴重な資源の節約に僅かながらも貢献できればと考えております」

また、日本電気株式会社 インフォメーションシステム部 木賀 貞夫氏は、「製品詳細仕様書やカタログ、マニュアルなどを Acrobat で PDF ファイルにして Web に掲載しています。紙情報を Web 上でお客様に提供するにあたり、紙情報と同じ形式ですばやく提供できることは、提供する側、提供される側、双方にとって、非常に重要なことです。」と述べています。さらに利点として、「フォント埋め込みや、リンク埋め込みができるので、フォントを持たないマシンでも意図した表示を見せられることや、リンクによる希望のアドレスを見せることもできます。また Web 上で開発用ドキュメントの管理が容易です。カタログ等の場合、画像などを含めても比較的軽量になること、そして一連のデータ情報がひとつにまとまっているのでダウンロードが 1 回の動作で済み簡単です。また Adobe Acrobat を使えば設計書・説明書等のかなり詳細なものまで作成可能で便利です。そして Adobe Acrobat Reader を使えばビューアが特定されているため表示のトラブルが発生しないということ、そして Web で無償配布していることにより、発信側が用意した PDF データを容易に閲覧できる体制が整っているという利点があります。HTML との連携機能を望んでいましたので、Web をそのまま取り込める機能を持つという Acrobat 4.0 に期待しています」と語っています。

## Adobe Acrobat 4.0 日本語版主要な機能と利点

以下は、Adobe Acrobat 4.0 日本語版の主要な機能と利点です。

一部 Windows 版のみに付加される機能があります。

### ビジネスユーザに便利な機能

\* **Microsoft Office 97 との連携**：文書を PDF に簡単に変換する Windows 版のみ  
Microsoft Office 97 のファイルを Acrobat アイコンへドラッグ & ドロップするだけで、ファイルを PDF に簡単に変換できるようになりました。また、一度 PDF にしたもののから、テキストを Word に取り込んだり、表を Excel に取り込んだりすることができます。



\* あらゆるドキュメントから PDF を作成 : Web ページをキャプチャーして PDF ファイルを作成、メールに自動添付 Windows 版のみ

Acrobat の新しい「Web キャプチャーツール」は、Web ページがもつグラフィックス、フォント、カラー、アクティブリンクを保持したまま、PDF ファイルへとすばやく変換します。それらのファイルを情報資産として整理して蓄積しておいたり、また自動的に生成した PDF ファイルをメールに添付した形で送ることができる「自動メールアタッチ」機能により、迅速な情報のやりとりが可能になります。また情報をプリントアウトしたい時に、すばやくきれいに行うことができます。

\* ドキュメントのセキュリティ管理 : Acrobat に電子署名によるドキュメント認証機能 Windows 版のみ

アドビシステムズ社は、Acrobat の現在のドキュメント保護機能を強化しました。Acrobat 4.0 では、作成者と主要な関係者たちが電子ドキュメントに「署名」できるようにすることで、情報を認証し、保護することができます。電子署名は、ドキュメントが送付された後に、変更されていないかどうかを検証し、署名者を間違いなく識別します。さらに第三者機関の認証を必要とする場合は、ベリサイン社の認証サービスに対応したプラグインソフト VeriSign Document Signer<sup>(SM)</sup> または、エントラスト社が提供する Entrust<sup>TM</sup>/PKI 環境下で Acrobat を使用することで、より高度なセキュリティを実現することができます。

印刷、デザイナー、広告制作、Web 制作、図面/仕様書作成エンジニアなどのプロフェッショナルユーザに便利な機能

\* ダブルバイト文字（日本語、中国語、韓国語）のフォントの埋め込みが可能

モリサワの New CID フォント他、PDF の埋め込みを許可された CID フォントおよび Windows True Type フォントを PDF に埋め込むことにより、受け取る側にそれらのフォントがなくても、オリジナル通りのフォントを再現、出力することができます。

\* オンラインドキュメントレビュー用機能 : 効率的な共同作業をサポート

テキスト注釈はもちろん、音声注釈、スタンプ、ハイライト、取り消し、などオンラインでのドキュメントレビューに必要なさまざまな注釈ツール機能により、オンラインでの共同作業が容易かつ確実になります。また注釈をつけた人物や日付けも表示され、必要に応じてソートできるため、いつ誰が注釈を加えたかも一目瞭然です。また、訂正前と後の「ページの自動比較」機能（Windows 版のみ）により、作業をより確実かつ効率的に行うことができます。



\* プリントプロダクションワークフロー用に PDF ファイルを最適化

Adobe PDF は、プリントプロダクションのためのプレスレディーファイルを配送するためのファイルフォーマットの有力な選択肢になりつつあります。Acrobat 4.0 が生成する Adobe PDF 1.3 は、アドビ ポストスクリプト 3 をサポートし、Distiller で PDF を作成する際に特定デバイスの ICC プロファイルの埋め込みが可能です。また、ジョブオプションにより、Distiller 設定をしなくても目的の出力メディアに応じて簡単に PDF をつくり分けられるほか、カスタマイズした Distiller の設定を保存できるなど、グラフィックアーティスト、パブリケーションデザイナー、プリプレスとプリンティングにおけるプリントプロダクションワークフローをサポートする機能を備えています。

\* オブジェクトの直前修正が可能

Acrobat 4.0 では PDF 内のグラフィック画像やイラストといったオブジェクトの電子ストリップ修正を、Adobe® Photoshop®5.0 や Adobe® Illustrator®8.0 との連携により、行うことができるようになりました。この機能で、急な印刷直前の変更などに対応しなければならぬ場合でも PDF ドキュメント上のオブジェクトのレタッチや移動、コピー、削除などの修正を迅速に行うことができます。

\* マルチメディアにも対応する PDF

Quick Time3 のサポートで、より高品質で機能豊富なムービーやサウンドクリップも取り込み可能です。また Active X コントロールなどの実行ファイルの貼り込みや画像ファイル (TIFF, JPEG, GIF, BMP, FPX) のインポート、デジタルカメラやスキャナからのイメージデータを PDF へ取り込むことができます。

必要システム構成

Windows

Intel® i486™ および Pentium® または 100% 互換のプロセッサを搭載したパーソナルコンピュータ

Microsoft Windows 95/98 日本語版 または Windows NT™ 4.0 日本語版 Service Pack 3 以降

Windows 95/ 98 日本語版 : 32MB 以上の RAM ( 64 MB 以上を推奨)

Windows NT 4.0 日本語版 : 64 MB 以上の RAM

100MB 以上の空き容量のあるハードディスク ( 付属の日本語、中国語、韓国語のフォントをインストールする場合は 150MB を推奨 )

CD-ROM ドライブ



Macintosh

Power Macintosh®

Apple® 漢字 Talk® 7.5.3またはMac OS® 7.6/8 日本語版以降

32 MB 以上の実装メモリ（64 MB 以上を推奨）

100MB以上の空き容量のあるハードディスク（付属の日本語、中国語、韓国語のフォントをインストールする場合は150MB以上を推奨）

CD-ROM ドライブ

アドビシステムズ社について

Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)は、1982年に創設され、米カルフォルニア州サンノゼの本社を拠点に活動を展開しています。アドビシステムズ社は、印刷・出版およびイメージングソフトウェアテクノロジーのリーディングカンパニーであり、年商10億ドル近くに達する世界第二位のデスクトップPCソフトウェア会社です。プロの印刷・出版業者、Webおよびグラフィックデザイナー、ドキュメントを多用する組織およびビジネスユーザ、そして個人ユーザ向けに定評のある様々なソフトウェアソリューションを提供しています。アドビの製品は、ユーザが視覚的にすばらしいイメージとドキュメントを、すべての紙および電子メディアにおいて創造し、出版し、配信することを可能にします。アドビシステムズ社は全世界で2,700人以上の社員で構成され、北米、欧州、環アジア太平洋地域、日本そしてラテンアメリカ地域で事業を展開しています。アドビシステムズ株式会社のWebサイトは<http://www.adobe.co.jp>です。

<お問い合わせ先>

アドビシステムズ株式会社

電話：03-5423-1860